資料2

確かな学力の育成に関するプロジェクト（仮称）

平成27年2月定例会（事前）
文教厚生委員会資料
教育委員会

※１ 全国学力・学習状況調査　※2 徳島県学力向上・授業改善調査検討委員会

現　状

【全国調査(※1)の結果分析と聞き取り調査】

- 例年どおり学力向上や学習状況の改善に取り組んだが，他と比べて相対的に伸びなかった。
- 全国調査の問題やその結果について，学校全体で研修することは少ない。**調査学年の担任や国語・数学の担当教員でないと，問題を見たり解いたりしていない**ことが多い。
- 教科書の内容に沿った問題は正答しているが，**初読で解くような問題の正答率が低い**。
- 小学校の国語の宿題は漢字の練習が中心。**家庭学習時間が短く，習熟が十分でない**。

【有識者会議(※2)での指摘】

- 学力に対する県の考え（全国調査問題を踏まえた公立高校入試の改善など）を明確に示し，**教員の意識を揃える**ことが必要。
- 全国調査や県独自調査を活用し，１年に**複数回のPDCAサイクル**を実施することが有用。
- 教員の指導力向上及び**授業改善**のため，実効性のある具体的な手立てが必要。
- 学校で学んだ内容を習熟させる機会を増やすことが必要であり，**家庭学習を充実**することが有用。
- **学校マネジメントを改善**し，管理職が学校を組織としてまとめ，学校の力を発揮できるようにすることが必要。

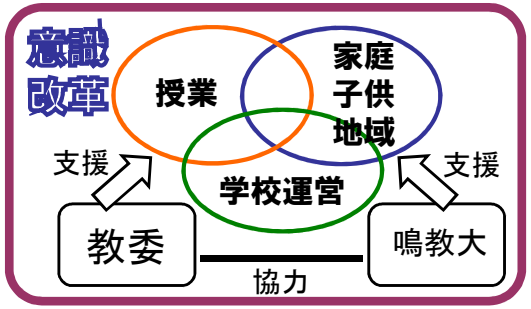
対　応　策

学力向上及び全国調査に対する意識を揃える

授業の改善

家庭学習の充実

学校マネジメントの改善



○学力に対する県の考え方の明示・周知

・公立高校入試で求める学力（県が考える学力）は，現行学習指導要領で求められている学力であり，全国調査を解ける力でもあるとの認識を確認。
・通常の授業内容，徳島県学力ステップアップテスト（小5と中2の12月），全国調査（小6と中3の4月），公立高校入試（中3の3月）が相互に関係することを周知。

○公立高校入試の改善（全国調査の出題・問題を十分に踏まえた作成）

○徳島県学力ステップアップテストの改善

・PDCAサイクルで，より効果的に学力向上に取り組む仕組みを構築するため，徳島県学力ステップアップテストを改善。継続的・効果的な実施に向けて検討。（例えば，実施学年を小4～中2，全国調査を含めて実施回数を年2回）

○現行の学習指導要領を踏まえた授業内容の改善の支援

・学校教育法等で示されている目標や現行学習指導要領，同要領解説を改めて確認することの重要性を周知し，授業の改善を促進。

○授業方法の改善の支援

・教員が共通して取り組み，授業を改善できるよう，簡易かつ具体的な新たな**手引（徳島スタンダード）を作成**するとともに，**一貫した指導・助言体制を構築**。

○各学校での全国調査の結果分析と授業改善への反映の支援

・全国調査を通じて現行学習指導要領で求められる学力を認識するよう促すとともに，授業で活用できる**資料の提供**や，**活用問題に関する研修**を実施。

○社会教育主事を活用した「子供の学びを支える場」のモデルの構築

・**社会教育主事**を活用した，公民館や退職教員・ボランティア等の**地域資源を活かした「子供の学びを支える場」**のモデルを構築。

○地域で協力して行う子供の学習支援の充実

○校長等管理職のマネジメント力の改善の支援

・**学力向上ロードマップ**を各学校で作成し，確実な取組を支援するとともに，学校長が率先して学力向上に取り組むよう**管理職研修等を改善**。

○教科時間数の適正化等を通じた教科指導時間の確保の支援

・学校行事の精選や，台風・インフルエンザによる休校に伴う振替の確実な実施等への指導・助言を通じた**教科の授業時間の確保を促進**。

学力・学校力向上支援事業（仮称）

・拠点校（地域）を中心に，県教育委員会・市町村教育委員会による集中的な学校訪問指導
・鳴門教育大学の学力向上専門教員による継続的な学校指導
・鳴門教育大学サテライト研修室による支援
・社会教育主事を活用した家庭学習支援

・合同研修等による近隣校への成果の普及
・研究発表等による県内全域への取組の広報